

COIL : Learning SDGs collaboratively (UMAP-COIL Joint Program 2021) 募集要項

1 プログラム内容

本プログラムは、COIL (Collaborative Online International Learning) という教育手法を用いて、日本にいながらにしてオンラインで世界各国の学生と繋がり、英語を共通言語として学んでいくプロジェクト型学習プログラムです。

<p>コース概要</p>	<p>世界の仲間と共に学ぶ「グローバル・シチズンシップ（地球市民としての意識、権利、行動）」</p> <p>アジア太平洋大学交流機構（UMAP）と共催する UMAP-COIL Joint プログラムでは、<u>VUCA(*) world</u> で活躍できるグローバル人材に必要な能力の育成を目指しています。このプログラムは<u>国際環境における現代の主要な社会問題</u>に関して、様々な視点から<u>グローバル・シチズンシップ</u>について考える機会を提供することを目的としています。国連の「<u>持続可能な開発目標</u>」（SDGs）に関連して、外交政策、国際情勢、貿易・金融、防衛・安全保障などの幅広いテーマを取り上げます。さらに、身近な社会問題である健康と福祉、教育への国際的アプローチ、ビジネスの革新と発展など、より具体的な分野についても学びます。本プログラムでは<u>国際的な時事問題</u>を取り扱い、最新のテーマや教材が取り入れられます。</p> <p>(*:Volatility(変動)、Uncertainty(不確実)、Complexity(複雑)、Ambiguity(曖昧)の頭文字をつなぎ合わせた造語)</p>		
<p>応募要件 外国語要件</p>	<p>CEFR B2 程度（GTEC 215+、TOEFL ITP 450+、TOEFL iBT 45+、TOEIC 440+）</p> <p>4技能（聞く・読む・話す・書く）について、総合的なレベルがあることが望ましい。</p> <p>聞く：長い話や複雑な議論の流れを理解することができる。</p> <p>読む：何度か読み返せば、自分の専門分野の文章や説明書などを、詳細に理解することができる。</p> <p>やりとり：母語話者同士の議論に参加できないこともあるが、自分が学んだ内容や自分の興味や経験の範囲内の内容なら、抽象的な話題であっても、議論できる。</p> <p>発表：関心のある分野の話題であれば、論拠を並べ自分の主張を明確に述べることができる。</p> <p>書く：知識のある話題についてなら、多くの情報源から情報や議論を整理し、それに対する自分の考えの根拠を示しつつ、ある程度のまとまりのあるレポートなどを書くことができる。</p>		
<p>対象</p>	<p>在学中の学部生、院生</p>	<p>担任者</p>	<p>国際部 専任教員および 教育推進部特任教員</p>
<p>参加費</p>	<p>無料</p>	<p>募集人数</p>	<p>20名</p>
<p>活動期間</p>	<p>事前研修：7月30日～8月1日 プログラム：8月2日～9月13日 事後研修：9月14日～9月20日</p>		

活動日程	<p>事前研修 7月30日(金)～8月1日(日) ※オンデマンド</p> <p>WEEK 1 8月2日(月) ※ライブ講義 10時～11時30分(日本時間) Lecture 1 "Overview of SDGs" Dr. Don Bysouth (特別任用准教授、関西大学)</p> <p>WEEK 2 8月9日(月) ※ライブ講義 10時～11時30分(日本時間) Lecture 2 "Language and Wellbeing" Dr. Yumiko Ohara (准教授、米国ハワイ大学ヒロ校) Lecture 3 "Gender Studies and Social Change" Dr. Diana Fox (教授、米国ブリッジウォーター州立大学)</p> <p>WEEKS 3-4 8月16日(月)～27日(金) グループプロジェクト(2週間) Description: Identify a good SDG-bound project either done by a company, an institution, or a group of students from your own country (or you may narrow it down to your local community) and explore more on them as a team. The findings are to be presented at the final presentation on September 13th. Further instructions will be notified after the program begins.</p> <p>WEEK 5 8月30日(月) ※ライブ講義 10時～11時30分(日本時間) Lecture 4 "Business for SDGs" Dr. JY Wu (特別任用助教、関西大学)</p> <p>WEEK 6 9月6日(月) ※ライブ講義 10時～11時30分(日本時間) Lecture 5 "Learning with Indigenous Cultures through Transboundary Environmental Field Schools" Dr. Nick Stanger (准教授、米国西ワシントン大学) Lecture 6 "Social Justice in the Context of COVID-19" Dr. Don Bysouth (特別任用准教授、関西大学)</p> <p>WEEK 7 9月13日(月) ※10時～13時(日本時間) 最終プレゼンテーション Description: ゲストジャッジをお迎えし、Weeks 3、4で取り組んだグループプロジェクトの発表を各チームおこなってもらいます。</p> <p>事後研修 9月14日(火)～9月20日(月) ※オンデマンド</p>
	共催

2 事前・事後研修

参加決定者は、以下のとおり事前研修・事後研修があります。研修期間中に受験していただく2種類の試験では、英語力と心理面における国際交流の効果を図ります。※両試験の結果は受験者が確認できるようにになっています。

1. 全ての手続きおよび課題等の提出物を定められた期日を守って提出/受験してください。
2. やむを得ない事情(授業との重複等)により研修に参加できない場合は、必ず事前に申し出たうえで、プログラム担当者または国際部からの指示に従ってください。
3. 本プログラム参加準備に対して積極的かつ誠実な対応で臨むよう努めてください。

事前研修 【必須】	7月30日(金)～8月1日(日) ※オンデマンド ImmerseU上でオンデマンド配信講義と課題を行う BEVIテスト(プログラム前)受験 英語能力テスト OPIc(プログラム前)受験
事後研修 【必須】	9月14日(火)～9月20日(月) ※オンデマンド ImmerseU上でオンデマンド配信講義と課題を行う BEVIテスト(プログラム後)受験 英語能力テスト OPIc(プログラム後)受験

※ImmerseUは、事前・事後研修で主に使用するオンラインツールです。

※BEVIは、国際交流の効果を測定するアセスメントツールです。

※OPIcは、言語能力を客観的に測定できる英語コミュニケーションテストです。

3 応募～参加者決定までの流れ

申込方法	<p>オンラインフォーム (URL: https://forms.office.com/r/BY8jcEsbwQ) または右記 QR コードより必要事項を記入の上、提出してください。</p> <p>(ログインの際は、アカウントに「k*****@kansai-u.ac.jp」、 k*****及びパスワードはインフォメーションシステムと同じものを入力します。)</p>	
募集締切	2021年6月18日(金) 正午(日本時間)	
派遣決定	<p>【参加者決定方法】申請内容(志望理由)と面接による選考 【面接】実施予定日:6月28日(月)～7月2日(金) 実施時間:10分程度 ※申込確認後に詳細をお知らせします。 【参加者決定時期】7月9日(金)</p>	

4 単位認定

すべての活動に参加した上で、プログラム内で指定された提出物を提出し、各学部において総合的に評価され認められた場合、単位認定(合格・2単位)を行います。なお、大学院及び今学期卒業見込みの学部生については、単位認定されません。また、学部・年次により単位認定の取扱(科目の位置づけや卒業所要単位への算入)が異なりますので、下記及びHAND BOOKを必ず確認してください。

○2020年度以前入学者

KUGF Field Study (International Collaborative Learning)という科目名で単位認定を行います。既に、この科目で単位を修得している場合、単位認定はされません(プログラムの参加は可能です)。



○2021年度入学者

KUGF Field Study (COIL: Learning SDGs collaboratively)という科目名で、単位認定を行います。



5 お問い合わせ

国際教育支援室 / グローバル教育イノベーション推進機構 (IIGE) 事務局
umap-coil@ml.kandai.jp